

11 話題の“明日へのホープ”
拭い切れぬか封建思想
一部に看護を賤視 東大、看護科の学生
医療婦人 昭和30年9月15日 1955

医療婦人

9月15日
昭和30年
(1955年)

話題の“明日へのホープ”

東大に看護科が生まれて早や三年になる。第一回生は本年から専門科目の履修に入ったが、教養学部を終えた学生たちの一部に、始め看護学部を選びながら、今になつて医学科への轉科を策したり、理科教員の免許状取得を運動するという者があるという。しかもその底を流れるものは、進歩的なるべき学生に、看護の医学への隷屬、という封建思想の支配が認められ、かつ看護せん視の風潮が働いているという。次代の看護界の指導者たちが果してこれでよいのだろうか？

拭い切れぬか封建思想
一部に看護を賤視

東大、看護科の学生

「医、薬と同等の地位に看護を」という全看護界の要請が実を結んで一昨、昭和二十八年東京大学医学部衛生看護学が開設された。そして第一回生を迎えて三年、教養学部の課程も終り、本年からは専門科目に進んで来た。現在、看護学部の主任教授は福田邦三博士（医学部生理学教授、教育学部体育生理学教授）で、次の講座が開かれてゐる。

①看護基礎医学第一 解剖、生理史
②看護基礎医学第二 看護原理及び看護史
③臨床医学看護学第一 内科学と看護学
④臨床医学看護学第二 外科学と看護学
⑤臨床医学と看護学第三 小児科、産科及び母子保健
⑥公衆衛生看護学
なお本年度開講を予定されるものとして
⑦看護基礎医学第二 生化学、栄養学
⑧精神衛生看護学 第一 医学的心理学、第二 発達心理学、第三 精神医学、第四 精神衛生

の八講座となつており、これが看護学部の全貌である。学部の開設とともに以上の八講座が認められたが、これは新設学部としては大変恵まれたもので、薬学部では先年まで七講座、最近やつと八講座になつた。看護界を挙げての熱意が実を結んだものである。そして教授の陣容は、一講座毎助教授一名、助教一名、助手三名をもつて形成され、看護学全体では教養学部をいれて三十七名の教官を擁している。たゞ予算関係から前配の通り昭和三十三年に達しないといふ完全な一科が形成されないのではある。

現在学生は一学年四十名、総勢百二十名がここに学んでゐるが、明日へのホープとして看護界を挙げて期待しているこれらの学生の一部に、最近、看護をせん視する者があり話題をまいてゐる。なるほどわれわれは看護が医学の奴隷ではなく、医業と並んで国民の保健衛生に貢献できることを願つてゐる。いな、それなるが故に確固たる基礎の上に看護学を打ち立てる必要を認め、大学に看護学

科を創設することを推進したのである。学問としての看護が今日の医学ほどの深い底と広い幅をもつてこそ、看護婦の地位の向上が計られることを信じて、たからわれわれが学生諸君に期待するものもまたこれ以外にない。よき看護婦として看護界をリードされる日を待つてゐるのである。

しかるに、学生諸君の一部に看護をせん視し、医学科への転科を希望したりあるいは理科教員の免許状の取得を云々するものがあるといふのは一体どうしたことだつたか。ナイチンゲール精神が正しく諸君に注ぎ込まれていないとしたら、いやそんなことはあるまい。諸君の正しい成長を全看護界が待望し

てゐることをしっかりと認識してもらいたい、というのがこの話題に対する看護界の解答である。



眼流

となる看護専門家の育成という
ねらいから、四年コースのうち
前期の一年半は、元一高の駒場
校舎で基礎看護などの専門教育
がスタートをしたわけだ。
全学連の方城といわれ、学生
運動のメッカともいわれる駒場
校舎の二毛半は皮衣たちも大